



藤田明さん（静岡市葵区）（写真部・杉山英一）

7-II/
Arts de Meets

創造力

鉛筆画家

藤田 明さん

（静岡市葵区）

珈琲・紅茶専門店Scene
（浜松市中区） 31日まで

「SLOW AIRS #6」

独創的な「かたち」発掘

古代文明が残した地上絵に宇宙を漂う人工衛星のようにも見える。独創的な「かたち」の数々。見る人の想像力をかき立てるのは、鉛筆画家藤田明さん（63）（静岡市葵区）の作品だ。「筆記用具としての出番は昔より減ったが、鉛筆でできる表現はまだあると思う」

鉛筆との出会いはデッサンを学ぼうと絵画教室に通い始めた30代前半。最初にそろえた鉛筆について書かれた

教本に「種類によって書き味が異なる」と書いてあるのを見つけ、「変なスイッチが入った」。その硬軟や色の違いなど奥深さに魅了されて世界各

国の鉛筆を收集し始め、現在は15カ国70ブランドの約6千本を手元に置く。

「洞窟の壁の凹凸にヒントを得て動物や人を描いた太古の人ほど何ら変わらない。紙の中には古く、菌やウイルス、図鑑も書棚に並ぶ。普段気に留められない二、三枚の世界やアリストムの画家など興味の対象は広く、菌やウイルス、図鑑も書棚に並ぶ。普段気に留める人が少ない二、三枚の世界や忘れられた画材に目を向け、じを鉛筆でこうこう発掘していく感覺に近い」

若い頃はバンド活動に没頭

したこともあり、作品の中に首又弦なども登場する。ロックや民族音楽のほか考古学、天文学、地学、シュールレアリズムの画家など興味の対象は広く、菌やウイルス、図鑑も書棚に並ぶ。普段気に留める人が少ない二、三枚の世界や忘れられた画材に目を向け、じを鉛筆でこうこう発掘していく感覺に近い」

（柏木かほる）